

信州アルプスシニア合唱祭

Golden Wave in INA

ゴールデンウェーブin伊那 2022

～信州・伊那谷に響き輝く ゴールデンエイジの歌声～

長野県伊那市で行われた「信州アルプスシニア合唱祭」が、4月13-14日の二日間にわたり開催されました。この大会は、本来NPO法人ゴールデンウェーブが主催する「国際シニア合唱祭ゴールデンウェーブin横浜」ですが、今回は諸事情により会場を長野に移して開催されました。

- ・2022年4月13日(水)・14日(木)
- ・長野県伊那文化会館 大ホール
- ・主催:長野県伊那文化会館
- ・講師:岸信介 古橋富士夫



たかとうこひがんざくら

今回は、コロナ禍で練習もままならないということもあり、直前にキャンセルされた団体もありましたが、全国から15団体が参加し、遠くは岡山、京都、愛知から遠征してきました。

各団の演奏終了後、すぐにお二人の講師がそれぞれ口頭で講評するというやり方も他では見られないものでした。

大会期間中の長野県は、新型コロナウイルス感染者数が過去最大というタイミングでしたが、マスク装着は出演団体の判断に任されており、当然マスクをしない団体もありました。「男声合唱団ゴールデンエイジふくい」がキャンセルしましたので、「アルプス男声合唱団」が唯一の男声合唱団となりました。

彩の国プラチナ混声合唱団「未来へ」を演奏

プラチナ混声は、谷川俊太郎作詩、信長貴富作曲<混声合唱曲集『かなしみはあたらしい』より「未来へ」>を演奏しました。楽譜は、ピース譜として特別に依頼したものを使用しました。

この曲は、ギター伴奏付きですので当初ギターも予定していましたが、最終的にはギタリストの都合がつかず断念しました。



詳しくはこちら↓にレビューしてあります。ご覧ください。

http://rkato.sakura.ne.jp/music/m171_shinshu_alps_nior_gasshosai.pdf

日本音楽家支援協会

フリーランスの音楽家を守りたい!

2020年2月からのコロナ禍で、全国的に音楽イベントが中止や無期限延期に追い込まれ、大きな社会問題となったことは記憶に新しいことです。イベントはたとえ開催できたとしても、客席は半分に採算が見込めない状況でした。

元ピアニストの小林奈美さんは、2020年3～4月、現役の音楽家に仕事の状況や収入面についてアンケートを実施しました。FacebookやLINEを使って呼びかけたところ、1週間で800名から回答が集まりましたが、予想以上に深刻なものばかりで愕然としたといいます。収入がゼロになっている、補償が少ないから生活ができない、音楽家をやめなければならない、アルバイトをしないと暮らせない、家賃が払えない、さらには死にたいといった声までもあったといいます。

そこで、フリーランス音楽家を守るため、2020年5月小林さん自らが代表理事となり、一般社団法人日本音楽家支援協会を設立しました。詳しくは下記サイト↓をご覧ください。

<https://www.talent-book.jp/atwillwork/stories/49178>

音楽家の74%はフリーランス

音楽家は日本に11万5千人おり、そのうち74%がフリーランスということです。名前のおとりの自由はありますが、自ら生計を立て、自分の身は自分で守らねばなりません。音楽家は、日々のレッスン、演奏会の準備(仕込み)、リハーサル、本番という流れで活動していますが、いわゆる営業の観点からは課題が多く、協会への加盟でサポートが得られるメリットがあるといいます。

賛助企業からは演奏機会や集客ツールなど、音楽家にさまざまなベネフィットを提供していくそうです。フリーランス音楽家と日々接している我われ音楽愛好家も、日本音楽家支援協会が今後どのように展開し、音楽家をサポートができるのか、見守っていきたく思います。

フリーランス音楽家が本来の力を取り戻せば、それはそのまま音楽芸術文化の維持向上につながります。大いに期待しましょう!